

長崎大学
核兵器廃絶研究センター一年報
2020

Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University
(RECNA)

Annual Report 2020

長崎大学

核兵器廃絶研究センター一年報 2020

目次

はじめに

- ・ パンデミックが核軍縮を進めるか [1](#)

RECNA 活動報告 (2020年4月1日～2021年3月31日) [2](#)

教員活動報告

- ・ 吉田 文彦 教授 (センター長) [9](#)
- ・ 鈴木 達治郎 教授 (副センター長) [10](#)
- ・ 広瀬 訓 教授 (副センター長) [11](#)
- ・ 中村 桂子 准教授 [12](#)

出版物 (リンク集) [14](#)

- ・ JPAND
- ・ RECNA ニュースレターVol.9_No.1、2
- ・ RECNA Newsletter Vol.9_No.1, 2
- ・ RECNA ポリシーペーパー
- ・ RECNA 叢書 6

活動報告 (リンク集) [14](#)

- ・ 被爆 75 年関連企画
- ・ 令和 2 年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」第 1 回～5 回
- ・ 北東アジアの平和と安全保障に関する専門家パネル
- ・ 公開セミナー／シンポジウム
- ・ RECNA ラウンドテーブル
- ・ RECNA 研究会
- ・ 運営委員会次第

教育 (リンク集) [15](#)

- ・ 大学院核軍縮・不拡散コース
- ・ 全学モジュール科目

ウェブサイト（リンク集）	<u>1 5</u>
・ 市民データベース	
・ 世界の核弾頭・核物質データ	
・ レクナの日	
ナガサキ・ユース代表団（リンク集）	<u>1 5</u>
資料：新聞記事リスト	<u>1 6</u>
あとがき	<u>2 6</u>

<はじめに>

パンデミックが核軍縮を進める [↑](#)

吉田文彦 (RECNA センター長)

人間と地球の健康を共に重んじる「プラネタリーヘルス」を、研究や教育の柱に据える。長崎大学がそう宣言してから、間もなくのことです。コロナウイルスによる感染が短時間に拡大し、パンデミックと化してしまいました。多くの人の暮らしや仕事のスタイルが激変し、所かまわずに大勢の人たちの命を奪ったり、脅かしたりするようになったのです。気候変動や核兵器の脅威への意識が薄まってしまうのではないかと思うほどに、パンデミックに対する脅威感が巨大化しました。

被爆 75 年を迎える 2020 年。核不拡散条約 (NPT) 発効から半世紀の節目となる 2020 年。核兵器禁止条約 (TPNW) が発効要件を満たす公算が大きい 2020 年。核軍縮、そしてその先の核廃絶への前進に期待が膨らむ中で、パンデミックの嵐が強襲してきたのです。私たちの行動は制約を受け、いくつもの重要な国際会議がやむなく中止、また延期に追い込まれました。長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) として、何をどうしていけばいいのか。なすべきことは、危機を逆手にとって好機に転じていくことではと考えました。多くの学びがありましたが、次の二つは特に重要なものです。

第一に、より広い視野で核問題を考えてみることです。パンデミックで、「想定外」の危機がいつも簡単に世界を覆い尽くす現実を見せつけられました。この危機体験を経て、核リスクを直視せずに核抑止に頼り続けることの危険性にも、より敏感になるのではないかと考えました。パンデミックのようなグローバルな危機に対応するために、国際協調の必要性が一段と求められるようになるだろうとの思いもふくらみました。

第二に、オンラインによる情報伝達の効果を実感しました。対面して意見や情報を交換する意義に変わりはありませんが、オンラインによる会合やイベントが新たな地平を拓いてくれているのも事実です。人の移動が制約されるなか、オンライン方式によって距離という壁を壊し、しかも安価に対話をはかれる新たな体験を積み重ねました。

オンラインで配信した企画「[核・コロナ・気候変動－問題の根っこにあるもの](#)」(全6回の対談動画集)。オンライン・ワークショップを開催して、「パンデミックの未来と核兵器リスク」を考えた「[ナガサキ・核とパンデミック・シナリオプロセス](#)」。いずれもが上のふたつの学びを活かした活動の代表例です。RECNA 叢書 6 号を電子書籍で刊行したのも、オンライン授業での活用を期待を寄せてのことでもありました。

2021 年度も with コロナを強いられそうですが、2020 年度のパンデミック体験から会得したことを、RECNA として大いに活かしていきたいと考えています。

<RECNA 活動報告>

RECNA 活動報告（2020年4月1日～2021年3月31日）[↑](#)

§1 活動内容の報告

概要：

2020年度は核軍縮にとって新たな転機をうかがわせる1年となった。2020年10月、核兵器禁止条約（TPNW）の批准国が発効要件の50か国に到達し、2021年1月に同条約は発効した。2020年の米国大統領選挙では、ドナルド・トランプ氏に比べて核軍縮指向の強い民主党のジョー・バイデン氏が当選し、2021年1月に就任した。一方、発効から50年の節目を迎えた核不拡散条約（NPT）はコロナ禍の影響で再検討会議が2021年夏に延期され、TPNWが存在する中での初の再検討会議を迎えることになった。こうした中で核兵器廃絶研究センター（RECNA）は、時事的な動向を分析した「[NPT発効50年：『核のある世界』に立ち向かう](#)」（2020年7月）と「[核兵器禁止条約発効：新たな核軍縮を目指して](#)」（2021年1月）の、ふたつのポリシーペーパーを発表した。

パンデミックが核世界、とくに核リスクに及ぼす影響はどのようなものか。この点に着目した事業も行った。ひとつが、RECNAがノーチラス研究所、アジア太平洋軍縮・不拡散リーダーズネットワーク（APLN）と共催で行った「被爆75周年ナガサキ・核とパンデミック・シナリオプロジェクト」である。「シナリオ・プランニング手法」に基づき、11か国から約50名の多様な専門家・若者の参加者を得て、2020年10月～11月にかけて4日にわたるオンライン・ワークショップを開催した。その成果を報告書「[パンデミックの未来と核兵器リスク](#)」として2020年12月に発表（英語）。その後2021年1月に[日本語](#)、[韓国語](#)、[中国語](#)（要旨のみ）版を発表した。

さて、センター規則第3条に基づくRECNAのミッションは、核兵器廃絶に係る調査・研究、連携・協力、資料収集・保存、啓発・教育、発信・出版である。調査・研究では今年度（2020年度）に、Journal for Peace and Nuclear Disarmament（J-PAND）を予定通りに刊行しただけでなく、2つの論文データベース（英文）への掲載が実現するなど、国際的な評価を高めた。また、「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル（PSNA）」（主催・事務局はRECNA）の研究事業では上記の「パンデミックの未来と核リスク」焦点をあてたプロジェクトを実施した。同研究事業でのワークショップや最終報告書等の成果物でプラネタリーヘルスのロゴを使い、長崎大学の重点事項を国際的に広める役割も担った。科研費：基盤研究(B)(特設分野研究)「グローバルな核リスク極小化にむけて：新たな理論構築と実践的政策提言」の研究プロジェクトは今年度が最終年となった。研究成果をまとめ、電子書籍『第三の核時代 破滅リスクからの脱却』を2021年3月に刊行した。RECNAが取得したISBN（国際標準図書番号）を付け、RECNA叢書6号とした。

啓発・教育のうち、教育に関しては多文化社会学研究科での教育・研究指導に力点を置き、

2020年度にはRECNA担当の院生が博士課程後期と前期に各2名在籍した。うち前期の1名は修士号授与が確定し、多文化社会学研究科におけるRECNA担当分野が着実にプレゼンスを増している。啓発に関しては、核兵器廃絶長崎連絡協議会が行う事業を、コロナ禍を踏まえたオンライン等の活用によって継続・成功させた。発信・出版では、前述の電子書籍『第三の核時代』をRECNA叢書6号として出版した。RECNAが取得したISBNを活用する形で、2020年度年度内にRECNA Policy Paper「NPT発効50年：『核のある世界』に立ち向かう」と「核兵器禁止条約発効：新たな核軍縮を目指して」をISBN付図書として刊行するなど、より発信力を高める体制を整えた。RECNAの事務部門は学術情報部に頼ってきたが、2020年度よりRECNA事務室を独立して設置し、業務の効率的・効果的遂行をはかってきた。

以下に、センター規則第3条に規定する業務分類に従って標記期間の活動を報告する。

(1) 調査・研究

●ノーチラス研究所、アジア太平洋核軍縮・不拡散リーダーシップネットワーク (APLN) と共催で、「[被爆75周年ナガサキ・核とパンデミック・シナリオプロセス](#)」を実施した。「シナリオ・プランニング手法」に基づき、11か国から約50名の多様な専門家・若者の参加者を得て、2020年10月～11月にかけて4日にわたるオンライン・ワークショップを開催した。その成果を報告書「パンデミックの未来と核兵器リスク」として2020年12月に発表（英語）、その後2021年1月に日本語、韓国語、中国語（要旨のみ）版を発表した。またその成果に基づき、「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル (PSNA)」の共同議長による「長崎を最後の被爆地に！北東アジアにおけるパンデミックと核に関する19の提言」（日・英）も同時に発表した。本プロジェクトでは、有数の専門家に15本のワーキングペーパーを依頼し、ウェブで公開した。これらの報告書、並びにワーキングペーパーはすべて、後述する英文学術誌 *Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)*（「平和と核軍縮」）の特別号として、2021度の早い時期に掲載予定である。

●2018年度より開始した科研費「グローバルな核リスク極小化に向けて：新たな理論構築と実践的政策提言」（吉田文彦教授主査）は、今年度が最終年度であり、とりまとめの議論を2020年9月14日にメンバー全員参加のオンライン会合で実施した。最終報告書は『第三の核時代：破滅リスクからの脱却』と題して、RECNA叢書第6号 Kindle版で発行することとなり、2021年3月19日からKindleや紀伊国屋書店などのウェブで入手可能となった。より多くの読者に読んでもらうため、とくに各地の大学でのテキストとして活用されることを目指して、価格はゼロ円とした。

●国際基督教大学 (ICU) 平和研究所 (ICU-PRI) との協力の下、「軍縮教育」（特に核軍縮・不拡散教育）をテーマとする研究プロジェクトを実施している。2020年度は、科研費・基

盤研究(B)「日韓共同による軍縮・平和教育プログラムの作成・実践・評価：教育的アプローチ」(研究代表：笹尾敏明 ICU 教授)の初年度として、日韓における平和・軍縮教育に関する現況調査を行うなど、軍縮教育のカリキュラム及び教材作成に向けた準備を進めた。2020年11月25日には被爆75年記念特別シンポジウム「[平和・軍縮教育の新たな展開～核兵器禁止条約の時代を見据えて](#)」(主催：RECNA、協力：ICU-PRI)を開催した。2021年3月には、山極壽一前京都大学総長による特別講演を日英両語のビデオ教材の形に編集し、長崎市、広島市、(公財)広島平和文化センターの三者が認定する大学での「広島・長崎講座」に提供した。あわせてパネルディスカッションの記録冊子(日英)も発行した。

(2) 連携・協力

●長崎県・市等との協力 長崎県、長崎市、長崎大学で構成する核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU協議会)の活動等を通じて、引き続き良好な協力関係を継続している。PCU協議会が主催する「ナガサキ・ユース代表団」プロジェクトに、RECNAは2020年度も全面的に協力した。第8期生として、書類審査と英語面接を経て7名の若者が任命された(長崎大学生5名、長崎大学院生1名、長崎県立大学生1名)。メンバーは、2020年4月末から開催予定であったNPT再検討会議へ向けて準備を進めていたものの、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大によりNPT再検討会議の延期が決定し、渡航は実現しなかった。しかし、ニューヨークで実施予定であったサイドイベント"All humans could be next Hibakushas. All humans could make others be Hibakushas"を5月24日にオンライン開催するなど、インターネットを活用し、積極的に活動を展開した。例年とは全く異なった状況で試行錯誤しながらも有意義な活動を積み重ね、例年通りに活動報告会や活動レポートを刊行した。

11月には、第9期生の一次審査及び二次審査が行われ、OBOG枠の1名を含む9名(長崎大学生・院生6名、長崎県立大学生2名、長崎外国語大学生1名)が選考された([ナガサキ・ユース代表団第9期生メンバー](#))。現時点では2021年8月に延期されたNPT再検討会議への参加も視野に入れつつ、当面はオンライン主体での活動を実施している。また、2021年1月にBasel Peace Officeとバーゼル州(スイス)が主催する[Basel Peace and Climate action of European Youth \(PACEY\) Award](#)のグローバル部門で、受賞はならなかったものの、最終候補の3グループの一つとしてプレゼンテーションを行うなど、ナガサキ・ユース代表団の活動は着実に国際的な知名度を上げている。

PCU協議会の主催で、被爆75年企画「[核・コロナ・気候変動－問題の根っこにあるもの](#)」を実施した。全6回の対談映像集で、RECNAの教員が、田上富久・長崎市長、中満泉・国連事務次長(軍縮担当)、作家の佐藤優さん、ウイルス学や気候変動問題の専門家らと語り合った。各回の動画視聴回数は、長崎市内の会場で行うシンポジウム等のイベントの際の参加者数をはるかに上回る数に達しており、コロナ禍のもとでのオンラインを活用したメッセージ発信の新たな試みとして成果を残した。

8月9日の長崎市平和宣言の作成に、朝長客員教授、梅林客員教授、鈴木副センター長が

起草委員としてかかわった。平和式典「平和への誓い」代表者選定審査委員会には、三根客員教授、鈴木副センター長が委員として参加した。その他、長崎平和推進協会、長崎平和追悼記念館主催の行事に協力した。

長崎市、広島市、(公財)広島平和文化センターとは、「広島・長崎講座」を通じたものを含め、軍縮教育の研究・普及や、同センターが事務局をつとめる平和首長会議に関する情報を互いに提供していく形での連携を進めている。8月4日にオンラインで行われた平和首長会議主催のユース・フォーラムにおいて中村准教授が講演し、ナガサキ・ユースのメンバーが活動についてプレゼンするなど、平和首長会議との連携強化も実践してきた。

●ICU との包括連携協定に基づき、上記の「軍縮教育」に関する研究プロジェクトを実施している。11月25日には、被爆75年記念特別シンポジウム「平和・軍縮教育の新たな展開～核兵器禁止条約の時代を見据えて」(主催:RECNA、協力:ICU 平和研究所)を開催した。ICU とは、ICU サービスラーニングセンター(ICU-SLC)が実施する長崎での事業をRECNAが側面支援することを内容とする覚書を作成し、3月29日に署名した。教育分野では、ICU 大学院と長崎大学多文化社会学研究科の単位互換制度において、長崎大学側からはRECNA 教員が担当する科目が互換対象として実施された。

●韓国の研究機関との連携:韓国を代表するシンクタンクである世宗研究所とは、9月17日のシンポジウム「コロナ19時代の北東アジア平和協力と日韓関係」の開催で協力した(主催:韓国国際交流財団、世宗研究所、後援:RECNA、広島市立大学広島平和研究所)。吉田センター長がパネリストとして参加した。

●韓信大学校との協力では、上記の特別シンポジウム「平和・軍縮教育の新たな展開～核兵器禁止条約の時代を見据えて」に、イ・キホ韓信大学校(韓国)平和と公共性センター長に参加してもらった。イ・キホ教授にはICU との「軍縮教育」に関する共同研究プロジェクト、さらには「被爆75周年ナガサキ・核とパンデミック・シナリオプロジェクト」でご助力をあおいだ。

●広島市立大学広島平和研究所とは、シンポジウム「コロナ19時代の北東アジア平和協力と日韓関係」での協力に加えて、水本和実教授に、科研費研究プロジェクト「グローバルな核リスク極小化に向けて:新たな理論構築と実践的政策提言」に加わってもらった。RECNA 叢書6号の執筆者の一人にも加わってもらった。

●国連及び関連国際機関との協力:中満泉・国連上級代表(軍縮担当)が8月9日に長崎を訪問した際に、吉田文彦と面談し、意見交換した。また、中満代表はナガサキ・ユース代表団メンバーを中心とした学生グループとのダイアログへも参加した。特別シンポジウム

「平和・軍縮教育の新たな展開～核兵器禁止条約の時代を見据えて」に、国連軍縮局（UNODA）ウィーン事務局長（軍縮教育の担当者）がパネリストとして参加した。

●RECNA ラウンドテーブル・研究会等：今年度は、RECNA ラウンドテーブルは開催しなかった。RECNA 研究会を1回開催し、「長崎被爆・戦後史研究会」の後継プロジェクトとして「核遺産・核政策研究会」を立ち上げて、公開ワークショップを1回開催した。

RECNA 研究会は、オンラインで2021年1月26日、桐谷多恵子客員研究員による「被爆者にとっての〈復興〉を手探りで考える」、橋場紀子氏（多文化社会学研究科博士課程1年）による「韓国人被爆者：「語り」から見る社会的被害の特徴分析」の2つの講演と意見交換を実施した。

「核遺産・核政策研究会」は、今後の研究の方向性について自由な意見交換を行うことを目的に、2021年3月2日にオンラインによる公開ワークショップを開催した。研究会メンバーの4人による発表と参加者による自由な意見交換を行った。

（3）資料収集・保存

●核兵器廃絶に関する基礎情報を市民データベースとして整備し、ウェブ上で公開することはRECNAの重要な活動の一つである。2020年版の[核弾頭データ](#)及び[核物質データ](#)は例年同様、6月1日付で最新のデータに更新した。[英語版ページの更新](#)も行った。核兵器廃絶長崎連絡協議会が発行するデータのポスター（[核弾頭](#)・[核物質](#)）と解説しおり（[核弾頭](#)・[核物質](#)）の作成も継続している。ポスターは日英韓の3カ国語で、しおりは日英の2カ国語で作成している。一般市民を対象に重要な一次資料を日英両語で分かりやすく紹介する「市民データベース」のサイトの更新も継続している。

（4）啓発・教育

●2019年度は、多文化社会学研究科前期課程の核軍縮・不拡散科目群、後期課程の核兵器廃絶・平和学系ともに2名ずつ、計4名が在籍した。今年度にスタートした後期課程の2名はともに社会人で、リカレント教育にも貢献した。前期課程の2名は多文化社会学部からの内部進学である。来年度（2021年度）に入学予定の1名も内部進学で、これによって2018年度に前期課程開設以来、4年続けてRECNA担当分野に内部進学者が続いたことになり、学部と研究科の連携・継続型の教育・研究指導の基盤が固まりつつある。

●全学モジュール「核兵器のない世界を目指して」では、モジュールⅠ（1年次生対象）として昨年度同様に後期に必修3科目が開講され、受講生は約80名であった。モジュールⅡ（2年次生対象）についても、「核兵器廃絶へのアプローチ」（必修3科目）、「私たちと核兵器廃絶」（必修3科目）の2つの科目群を継続した。これらをあわせて前期3科目、後期3科目が開講され、受講生はそれぞれ約40名であった。モジュールⅠ、Ⅱともに今年度も履

修希望者が履修可能な上限を超えており、抽選により受講学生の絞り込みが実施された。加えて、英語によるグローバル・モジュール1科目（後期。受講生約15名）の開講も継続した。

（5）発信・出版

●RECNA が編集を担当する長崎大学の刊行物、J-PAND (Journal for Peace and Nuclear Disarmament、2017年12月発刊)は、1年に1巻（各巻に2号）のペースで刊行を進めてきた。2020年度もこのペースを維持し、第3巻1、2号を発刊（それぞれ2020年6月、12月）した。これに加え、第3巻特別号として、インタビュー連載記事「[市民科学者 フランク・フォンヒッペル：核軍縮に挑み続けた半世紀](#)」を刊行した。2020年度の主な実績は以下の通りである。

① 閲覧数

2020年の閲覧数（論文ダウンロード数）は、2019年と比べると約2.4倍伸びた。

創刊以来、掲載論文総数は106本で、このうち3万件以上の閲覧数の論文が1本、2万件以上が1本（朝長万左男先生著）、1万件以上が4本、3000件～1万件の論文が18本であった（2020年度末現在）。

② 論文の引用

被引用論文41本、被引用総回数71回

③ 論文インデックス

論文データベース ESCI (Emerging Sources Citation Index、クラリベイト・アナリティクス社)、Scopus (エルゼビア社)への掲載がそれぞれ2020年度中に実現した。現在、ジャーナル・インパクト・ファクター (JIF) 付与に向けて、論文データベース SSCI (Social Sciences Citation Index)への掲載をめざしている。

●科研費：基盤研究(B)(特設分野研究)「グローバルな核リスク極小化にむけて：新たな理論構築と実践的政策提言」の研究プロジェクト（主査・吉田文彦）は2020年度が最終年となった。①核リスク極小化に向けた理論的考察、②先端技術台頭による新たな核リスク分析、③人間安全保障論等の新たな安全保障概念の整理・考察、④前記3つの研究に基づく新たな安全保障理論構築と政策提言の4分野について研究成果をまとめ、電子書籍『第三の核時代』を2021年3月19日に刊行した。RECNAが取得したISBNを付け、RECNA叢書6号とした。電子書籍は初の試みで、科研費の成果物で利益をあげてはいけないことと、幅広く読んでもらうことを期待しつつ、価格を「ゼロ円」に設定した。

●重要課題について、タイムリーに情報を発信するため、2020年度も「レクナ・ポリシーペーパー」を3本、「レクナの目」も3本発表した。ポリシーペーパーとしては、2020年7月には、台湾海峡危機と当時の米中核戦略について Gregory Kulacki 客員研究員による

「[Nuclear Weapons in the Taiwan Strait](#)」(英文)を発表、同じく2020年7月には、核不拡散条約(NPT)の50年を評価した、レクナスタッフ9名による「[NPT発効50年:『核のある世界』に立ち向かう](#)」を発表した。2021年1月には、核兵器禁止条約の発効に際して、レクナ教授陣4名と黒澤満顧問、西田充客員准教授の6名による「[核兵器禁止条約発効:新たな核軍縮を目指して](#)」を発表した。「レクナの目」については、2020年4月3日に「[核不拡散条約\(NPT\)50年の節目:再検討会議延期を受けて](#)」、2020年10月25日に「[核兵器禁止条約発効確定を受けて](#)」、2021年1月22日に「[核兵器禁止条約発効を受けて](#)」の3本を発表した。

●RECNA ニュースレターについては、昨年度からデジタル版のみでの年二回発行に移行し、今年度は2020年9月に[Vol.9 No.1 \(日英ともにデジタル版\)](#)を予定通りに発行し、2021年3月に[Vol.9 No.2 \(日英ともにデジタル版\)](#)も刊行した。

<教員活動報告>

2020 年度任教員活動報告

氏名 吉田文彦 [↑](#)

肩書 RECNA センター長・教授

編集長 Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)

I. 教育

(1) 担当科目

多文化社会学研究科博士前期課程	「核軍縮と国際政治特講」 「核軍縮と国際政治特定演習」 修士論文指導
多文化社会学研究科博士前期課程	博士論文指導

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 核軍縮政策
- 核不拡散政策
- 核戦略と安全保障

(2) 業績一覧 (researchmap を参照)

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 書籍等出版物 - researchmap](#)

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 論文 - researchmap](#)

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 講演・口頭発表等 - researchmap](#)

III. 社会貢献

(1) 連携事業

なし

(2) 外部委員

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 委員歴 - researchmap](#)

(3) 市民向けの活動等

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 社会貢献活動 - researchmap](#)

(4) メディア報道

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - メディア報道 - researchmap](#)

その他は、本年報の「2020 年度 報道記事」参照

IV. 校務分掌

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 委員歴 - researchmap](#)

氏名 **鈴木 達治郎** [↑](#)

肩書 RECNA 副センター長・教授

I. 教育

(1) 担当科目

全学モジュール I・II

「核と平和を科学する」

「被ばくと社会」

多文化社会学研究科博士前期課程

「原子力平和利用と核不拡散」(特講・演習)

「核物質管理と核セキュリティ」(特講・演習)

II. 研究

(1) 主要研究テーマ : 核軍縮・核不拡散政策、北東アジア非核兵器地帯と包括的安全保障、核物質管理・核セキュリティ、原子力平和利用と核不拡散

(2) 業績一覧 (researchmap を参照)

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 書籍等出版物 researchmap](#)

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 論文 researchmap](#)

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 講演・口頭発表等 researchmap](#)

III. 地域貢献

(1) 連携事業

特になし

(2) 外部委員

- 日本軍縮学会会長
- 衆議院原子力問題調査特別委員会アドバイザーボード メンバー

- 科学技術振興機構社会技術研究センター（RISTEX）運営評価委員会座長
- 日本パグウォッシュ会議会長代行、パグウォッシュ会議評議員、執行委員
- 「安全保障と先端技術プラットフォーム」（PSET）共同代表
- 日本経済研究センター 特任研究員
- 笹川平和財団 「原子力平和利用と核不拡散研究会」 座長
- アジア太平洋核軍縮・不拡散リーダーシップネットワーク（Asia Pacific Leadership Network for Nuclear Non-proliferation and Disarmament [APLN]）理事会メンバー
- オープン・ニュークリア・ネットワーク（Open Nuclear Network）メンバー

（3）市民向けの活動等

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 社会貢献活動 researchmap](#)

（4）メディア報道

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) メディア報道 researchmap](#)

IV. 校務分掌

特になし

氏名 [広瀬 訓 ↑](#)

肩書 RECNA 副センター長・教授

I. 教育

（1）担当科目

全学モジュール I・II	「国際社会と平和」 「文学・芸術と核兵器」（科目責任者） 「核軍縮の法と政治」（科目責任者）
多文化社会学部	「国際機構論」 「軍縮論」（科目責任者） 「基礎演習 I・II」 「専門演習 I・II」
多文化社会学研究科博士前期課程 医学部	「核軍縮交渉の法と政治」（特講・演習） 「医学史・原爆医学と長崎」（オムニバス）

II. 研究

（1）主要研究テーマ

- 包括的核実験禁止条約（CTBT）の意義と特徴
- 国際人道法上の核兵器の位置づけ
- 軍縮・平和教育における各種メディアの有効活用

(2) 業績一覧（researchmap を参照）

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 書籍等出版物 researchmap](#)

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 論文 researchmap](#)

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 講演・口頭発表等 researchmap](#)

III. 地域貢献

(1) 連携事業

特になし

(2) 外部委員

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 委員歴 researchmap](#)

(3) 市民向け活動等

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 社会貢献活動 researchmap](#)

(4) メディア報道

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) メディア報道 researchmap](#)

IV. 校務分掌・その他

(1) 校務分掌

- 全学モジュール小委員会委員

氏名 中村桂子 [↑](#)

肩書 RECNA 准教授

I. 教育

(1) 担当科目

全学モジュール I・II	「核兵器とは何か」（責任者）
	「市民運動・NGO と核兵器廃絶」（責任者）
グローバル・モジュール	「Toward a Nuclear Weapon-Free World」（責任者）
多文化社会学部	「軍縮論」（オムニバス）
医学部	「医学史・原爆医学と長崎」（オムニバス）

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 核軍縮・不拡散をめぐる多国間協議の動向
- 核兵器廃絶に向けた市民社会の取り組み
- 核軍縮・不拡散教育

(2) 業績一覧 (researchmap を参照)

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 書籍等出版物 reserachmap](#)

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 論文 reserachmap](#)

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 講演・口頭発表等 reserachmap](#)

III. 地域貢献

(1) 連携事業

(2) 外部委員

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 委員歴 reserachmap](#)

(3) 市民向け活動等

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 社会貢献活動 reserachmap](#)

(4) メディア報道等

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) メディア報道 reserachmap](#)

IV. 校務分掌・その他

(1) 校務分掌

<リンク集>

出版物 [↑](#)

- J-PAND [第3巻1号](#), [第3巻2号](#)
- RECNA ニューズレター [Vol.9 No.1](#), [Vol.9 No.2](#)
- RECNA Newsletter [Vol.9 No.1](#), [Vol.9 No.2](#)
- RECNA ポリシーペーパー
 - [REC-PP-10](#) Nuclear Weapons in the Taiwan Strait
 - [REC-PP-11](#) NPT 発効 50 年: 「核のある世界」 に立ち向かう
 - [REC-PP-12](#) 核兵器禁止条約発効: 新たな核軍縮を目指して
- RECNA 叢書
 - [第6巻](#) 『第三の核時代: 破滅リスクからの脱却』

活動報告 [↑](#)

- 被爆 75 年関連企画
 - 被爆 75 年対談シリーズ「[核・コロナ・気候変動ー問題の根っこにあるもの](#)」
 - 被爆 75 年記念事業「[ナガサキ・核とパンデミック・シナリオプロセス](#)」
 - 被爆 75 年記念特別シンポジウム
 - [「平和・軍縮教育の新たな展開～核兵器禁止条約の時代を見据えて」](#)
- 2020 年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」
 - [第1回](#) 「NPT 再検討会議に向けた課題」
 - [第2回](#) 「核時代の文学 偽(にせ)の語り部と小説の真実」
 - [第3回](#) 「沖縄と核 歴史を変えた 1945 年の空白」
 - [第4回](#) 「ローマ教皇の長崎訪問の意義」
 - [第5回](#) 「核政策は変わるか 大統領選挙後のアメリカ」
- 北東アジアの平和と安全保障に関する専門家パネル
 - [長崎を最後の被爆地に！ 北東アジアにおけるパンデミックと核に関する 19 の提言](#)
- 公開セミナー／シンポジウム
 - RECNA 長崎被爆・戦後史研究会公開・総括シンポジウム
 - [「私たちは何を継承すべきか 長崎の被爆・戦後史研究から見えてくるもの」](#)
- RECNA 研究会 第 36 回 [開催案内](#)
- RECNA 運営委員会 第 12 回 [議事次第](#)

教育 [↑](#)

- 大学院 [核軍縮・不拡散コース](#)
- 全学モジュール I [「核兵器のない世界を目指して」](#)
II [「私たちと核兵器廃絶」](#)
II [「核兵器廃絶へのアプローチ」](#)

ウェブサイト [↑](#)

- [市民データベース](#)
- [世界の核弾頭・核物質データ](#)
- [レクナの目](#)

ナガサキ・ユース代表団 [↑](#)

- [募集ポスター](#)
- [メンバー紹介](#)
- 活動報告
[ナガサキ・ユース代表団 第8期生 オンラインイベント \(2020年5月24日\)](#)
[ナガサキ・ユース代表団 第8期生 活動報告会 \(2020年7月25日\)](#)
- [活動レポート](#)

長崎大学核兵器廃絶研究センター一年報2020

2020年度 報道記事 ↑

番号	日付	新聞	見出し
1	4月4日	長崎	新型コロナ「価値観変える可能性」
1-①	4月4日	長崎	長大レクナ・鈴木氏ら論考集HPで公開 核リスク考える好機に
1-②	4月4日	長崎	核問題 理解する入口 レクナ・中村氏がガイドブック
2	4月4日	長崎	NPT会議派遣を中止 ナガサキ・ユース代表团
3	4月6日	長崎	ながさき時評 コロナウイルス危機 社会見直すチャンスに
4	4月8日	朝日	被爆証言 記憶を後世に 内田伯さん死去 爆心地復元図に尽力
5	4月9日	毎日	ナガサキ平和リレー(289) NPT延期を好機に
6	4月10日	長崎	あの人の人 平和への思い受け継ぐ「交流証言者」に取り組んでいる 田平 由布子さん
7	4月16日	西日本	核兵器の廃絶へ 専門家らが講座 6月から5回
8	4月16日	西日本	爆心地行ったり来たり NPT延期しても話は出来る
9	4月16日	西日本	平和をナガサキ 落とされた側の視点伝え 全米原爆ポスター展実施 スティーブン・リーパー氏に聞く
10	4月18日	長崎	新型コロナと文明 原発事故の教訓生かせ
11	4月20日	朝日	新型コロナ 核廃絶への流れ「延期させぬ」オンラインNPT会議NGO企画「運動拡大のチャンスに」
12	4月23日	長崎	NPT会議来年1月か 議長内定者が見解表明
13	4月30日	朝日	オンライン600人 核廃絶を議論 被爆者から10代の若者まで幅広く
14	4月30日	長崎	「核も戦争もない明日を」 NGO「勝手に”ネット軍縮会議
15	4月30日	朝日	「核の傘」維持 米に求める日本 「削減には、事前協議が不可欠」
16	4月30日	朝日	核以外の「抑止力」日本奔走 アジア核競争の影 被爆国ジレンマ
17	5月1日	西日本	戦跡をたどる 現地からの報告(2) 葉専防空壕 自分のためだけでなく
18	5月2日	長崎	窓を開いて 新型コロナ禍を教訓に
19	5月2日	長崎	被爆戦後75年 平和宣言文起草委 初会合開かず 長崎市、文書で意見集約
20	5月4日	西日本	核関連企業投資16行自制 指針策定 12銀行「将来的リスク」
21	5月4日	西日本	原発事故の教訓生かせ 元原子力委員会委員長代理 鈴木 達治郎さん
22	5月4日	長崎	核兵器関連企業への投資 国内16銀行、自制方針 全国調査 禁止条約支持も9行
23	5月6日	北海道	水曜討論 NPT発効50年 核軍縮の行方は 禁止条約へ非保有国連携
24	5月8日	長崎	平和宣言起草委 初会合を見送り 書面で意見募り素案
25	5月9日	長崎	核兵器廃絶へ「市民の声」を
26	5月9日	長崎	被爆戦後75年 「核・コロナ・気候変動」テーマ 各界の専門家らと対談 長大レクナ、HPで公開へ
27	5月11日	西日本	核廃絶 オンラインで議論 NGOが「勉強会」 全国から600人が参加
28	5月14日	西日本	核サイクル行き詰まり 原発利用縮小 「再処理必要ない」
29	5月14日	東興日報	再処理工場 事実上の審査合格 六ヶ所「経済効果に期待」 反核燃団体「出来レース」
30	5月14日	読売	核燃サイクル道険し 再処理工場「合格」 審査6年 完工見通せず
31	5月16日	西日本	核問題の「入門書」に RECNA中村准教授 ガイドブックを出版
32	5月16日	毎日	核問題学ぶガイドブック 中村准教授が出版
33	5月18日	朝日	核廃絶運動は閉じこもらない 若者発 ネットで「勝手にNPT会議」 証言「1対1のよう」・新しい可能性も
34	5月24日	朝日	変わり目のつづき 令和を迎えて 「沈黙の春」の爆心地 核抑止力 疑問う想像力を 新しい安全保障 始めるために
35	5月25日	共同	原爆の惨状、英語で世界に発信 長崎の大学生、会議システム使い
36	5月26日	朝日	ナガサキ・ユース 視聴者と質疑応答 反核訴え オンライン
37	5月26日	共同	長崎大とICUが共同で軍縮教育 北東アジアの非核化目指す

長崎大学核兵器廃絶研究センター一年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
38	5月26日	長崎	被爆戦後75年 ナガサキ・ユース代表団が発表会「誰もがヒバクシャになり得る」オンラインで世界に発信
39	5月26日	日経	長崎の大学生ら原爆の惨状発信 ビデオ会議で世界向け
40	5月26日	西日本	長崎大とIGUが共同で軍縮教育
41	5月26日	毎日	原爆の惨状 学生が世界に発信 長崎大と県立大 新型コロナ影響 オンラインで訴え
42	5月26日	読売	ユース代表団 NPT会議延期で 核廃絶 ウェブで訴える
43	5月27日	朝日	ハワイ派遣と原爆展を中止 長崎市 被爆75周年事業
44	5月27日	長崎	被爆戦後75年 「平和・軍縮教育」で人材育成 長大レクナとIGU共同研究 日韓学生対象 教材など開発へ
45	5月27日	長崎	被爆戦後75年 ハワイへの高校生派遣 県外原爆展 青少年ピースフォーラム 長崎市が中止
46	5月30日	共同	コロナを行動変える機に、長崎 核廃絶巡り市長ら対談
47	5月31日	長崎	溶解・核秩序 日本とNPT(上) 命運かけた非核の洗濯 保守強硬派、幻影に固執
48	5月31日	西日本	受難と復興の陰に無名の修道士「ヨゼフ様」原爆投下時、患者救う
49	5月31日	読売	被爆75年 核対談開始 長大教授ら 初回ゲスト長崎市長 「行動変れば社会変わる」
50	6月1日	朝日	核問題・新型コロナ・気候変動 人類の危機 対処法探る 被爆75年企画 RECNAの研究者ら鼎談
51	6月1日	長崎	ながさき時評 コロナと「非常時」「批判の権利」を捨てるな
52	6月1日	長崎	被爆戦後75年 核とコロナ 見えぬリスク 長大レクナ、長崎市長と対談
53	6月1日	毎日	長崎大と国際基督教大が教育プログラム 日韓の若者 平和・軍縮を ギャップ克服、北東アジア非核化目指す
54	6月4日	長崎	被爆戦後75年 オンラインに可能性 コロナ禍の平和発信 被爆者と若者が連携/アプリ不具合 課題も
55	6月4日	西日本	核やコロナ禍 問題意識共有 長崎大核廃絶センターと識者 対談、HPで公開
56	6月4日	西日本	爆心地行ったり来たり 不毛の大地 心に緑を取り戻す日常を
57	6月5日	長崎	被爆戦後75年 「平和への誓い」深堀さん 8・9式典 浦上天主堂で長年講話
58	6月5日	長崎	「争いのない世界大事に」「平和への誓い」を述べる被爆者代表 深堀 繁美さん(89)
59	6月6日	長崎	窓を開いて コロナ禍に軍縮問題悪化
60	6月6日	長崎	いまを生きる 長崎のコロナ禍インタビュー 長崎大核兵器廃絶研究センター長 吉田文彦氏 世界的リスク回避 意識を
61	6月7日	長崎	被爆戦後75年 より被爆の実相を 長崎平和宣言 市が起草委に原案
62	6月7日	西日本	「コロナ経験 核廃絶にも」 平和宣言素案 若者に訴える内容に
63	6月9日	共同	世界の核弾頭推計1万3410発 長崎人調査、中国3位浮上
64	6月9日	毎日	ナガサキ平和リレー(291) “脅威”乗り切る連帯を
65	6月10日	朝日	核弾頭1万3410発募る危機感 長大がポスター「質的には軍拡」
66	6月10日	長崎	被爆戦後75年 世界の核弾頭1万3410発 長大レクナ推計 中国30発増、3位に
67	6月10日	西日本	世界の核弾頭数 中国が初の3位 長崎大が推計、1万3410発
68	6月10日	毎日	長崎大発表 世界の核弾頭1万3410発 前年比減「質的には軍拡傾向」
69	6月10日	読売	世界の核弾頭1万3410発 前年より470発減「兵器性能は向上」 RECNA推計
70	6月12日	長崎	溶解・核秩序 日本とNPT(中) 権力闘争、遅れる批准 「タカ派」説得に腐心
71	6月12日	週間読書人	学術思想 徹底して冷徹、実直な実証 「二つの降伏調印」と「沖縄の行政分離」の新論点 櫻澤 誠
72	6月13日	西日本	社説 米口の核軍拡 歯止めを枠組み維持せよ
73	6月14日	長崎	世界の核弾頭1万3410発
74	6月16日	長崎	溶解・核秩序 日本とNPT(下) 批准見返りに傘の約束 韓国の核武装も背景に
75	6月16日	長崎	長崎含む16か国30都市 平和活動担う若者 オンライン交流へ
76	6月20日	西日本	長崎の平和式典に国連中満氏出席へ

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
77	6月20日	毎日	コロナで延期 NPT再検討会議 来年1月に開催調整
78	6月22日	中国	ジュニアライター発 ナガサキ・ユースのオンライン発表会 世界と議論 大切さ実感
79	6月22日	長崎	溶解・核秩序 アメリカとイラン(上) 歴史の扉開いた秘密交渉 国王肝いりで歩み寄り
80	6月26日	長崎	長大レクナ編集 ウェブ学術誌「平和と軍縮」特別号刊行
81	6月28日	朝日	変わり目のつぶやき 令和を迎えて 梅崎春生の小説に今を思う 同じ脅威下 いがみあう大国
82	6月28日	長崎	被爆・戦後75年 核抑止頼みは「思考停止」長崎 レクナ教員と学生 意見交換
83	6月28日	毎日	「新型核開発が進み、核軍縮は停滞」NPTと世界情勢を講演 長崎市で市民講座
84	6月28日	読売	NPT会議向け 課題を学ぶ講座 核廃絶長崎連絡協
85	6月29日	長崎	「SNSで発信」「中高生が記者に」平和問題の継承策提案 県内外の大学生、オンラインで市に
86	7月3日	長崎	被爆戦後75年 カナダ在住被爆者サーロー節子さん 核禁条約を巡り各国元首へ手紙 長崎の若者の平和活動は「励み」
87	7月3日	長崎	被爆戦後75年 核兵器禁止条約採択から3年 38カ国・地域が批准 発効近づく 核保有国や日本と推進国の溝深く
88	7月3日	長崎	被爆戦後75年 核兵器禁止条約採択から3年 「批准すべき」13市町
89	7月4日	長崎	窓を開いて 男女共同参画週間で考えた
90	7月6日	琉球新報	沖縄分離の北緯30度線 戦後処理、混乱結びつく 奄美の扱い・米軍管轄扱い・選挙改革
91	7月8日	長崎	原爆研究 関わりは薄い 理論物理学者・湯川秀樹 慶大名誉教授・小沼氏 日記などから全貌解明
92	7月15日	長崎	核廃絶「可能」6割 ナガサキ・ユース代表団に本紙調査 否定3割 抑止論や関心の低さが壁
93	7月16日	朝日	広告特集 長崎大学 ブラネタリーヘルス(地球の健康)に貢献する大学
94	7月16日	長崎	広告 長崎大学 ブラネタリーヘルスのためにVol.4 被爆の学び継承し平和発信
95	7月17日	西日本	NPT「保有国に有利」長崎大研究センターが論文集 発効から50年、功罪振り返る
96	7月18日	長崎	被爆・戦後75年 ナガサキ・ユースの視点 若者と平和活動① 期待 「共に頑張ろう」胸に
97	7月18日	長崎	米トリニティ核実験から75年「素晴らしい偉業」トランプ大統領が声明 「怒りさえしのぐ愚かさ」県内被爆者ら厳しく批判
98	7月19日	長崎	被爆・戦後75年 ナガサキ・ユースの視点 若者と平和活動② 苦悩 温度差痛感、答え模索
99	7月20日	長崎	ながさき時評 被爆75年 継承のひとつの条件
100	7月20日	長崎	被爆・戦後75年 ナガサキ・ユースの視点 若者と平和活動③ 意識 考える契機作りたい
101	7月21日	長崎	被爆・戦後75年 ナガサキ・ユースの視点 若者と平和活動④ 継続 平和への思い五線譜に
102	7月22日	長崎	被爆・戦後75年 被爆の実相 SNSで世界へ 広島、長崎から配信 ICANがきょうと24日 両資料館の展示物紹介
103	7月22日	長崎	被爆・戦後75年 ナガサキ・ユースの視点 若者と平和活動⑤ 根源 「心の安定こそ」信念に
104	7月23日	長崎	被爆・戦後75年 爆心地に「声紋」アート 芸術家・竹田さん制作 被爆者12人の証言 コード読み取ると音声
105	7月23日	長崎	被爆・戦後75年 ナガサキ・ユースの視点 若者と平和活動⑥ コロナ 命に向き合い 悩み考え
106	7月24日	朝日	今は冷戦期以上の核危機だ ベリー元米国防長官らに聞く
107	7月24日	長崎	被爆者8割 継承活動困難 体力減や当時の記憶なく 共同通信調査 コロナが妨げ「63%」
108	7月24日	長崎	表層深層 被爆者アンケート どうつなぐ核廃絶の思い 明日を見据え 続く模索 問われる新しい継承
109	7月24日	長崎	「被爆の継承問い直す」松村監督インタビュー 昭和30年代の長崎舞台 映画「祈り」完成
110	7月24日	長崎	被爆・戦後75年 ナガサキ・ユースの視点 若者と平和活動 番外編 インタビュー 新しい「形」見つけて
111	7月25日	朝日	原爆資料館ガイド ネット配信 ICAN 核軍縮へ「うねりを」
112	7月25日	長崎	被爆・戦後75年 コロナ禍 被爆実相SNSで配信 ICAN、原爆資料館から
113	7月25日	西日本	原爆資料館 世界へ生映像 コロナ禍 初のオンラインツアー NGO「被爆の実相」に触れて
114	7月26日	長崎	被爆戦後75年 核問題 若者にも易しく発信 ナガサキ・ユース8期生抱負 長崎大で報告会
115	7月28日	長崎	記憶をつなぐ 戦争・被爆資料編(4) 収集 散逸、廃棄に危機感

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
116	7月28日	毎日	原爆資料館 世界に配信 ICAN オンラインツアー
117	7月29日	北海道	水曜討論 原発の使用済み核燃料 再処理は必要か リスク増大で本末転倒
118	7月30日	西日本	爆心地行ったり来たり 祈念式典 絶望から紡ぐ希望の物語
119	7月31日	読売	核廃絶進まず焦り 本紙・広島大アンケート 被爆者9割が回答
120	7月31日	読売	被爆者1640人アンケート 核廃絶 いつになれば 学生8割 核廃絶・削減望む
121	8月1日	東京	プルトニウム 消費めど立たず 「もんじゅ」廃炉・プルサーマル 停滞 「中間貯蔵」の間に最終処分場建設を
122	8月1日	長崎	窓を開いて 偏見生まず差別防ぐため
123	8月1日	長崎	ヒロシマ・ナガサキ被爆75年 平和について考える一冊～次代につなぐ平和への願いをこめて～
124	8月1日	長崎	被爆戦後75年 パンデミックの核情勢 影響は？ 長大レクナがシナリオづくり
125	8月2日	朝日	長崎で国際平和シンポ 若者が討論 「被爆者だけの問題ではない」
126	8月2日	長崎	世界の核弾頭 今も1万3000発 原爆投下から75年 若い人 できることたくさんある
127	8月2日	長崎	被爆戦後75年 若者ら4人 意見交換 平和活動継続在り方考える 長崎で国際シンポ
128	8月3日	赤旗	長崎大学准教授 中村桂子さんに聞く 核のある世界 誰もが敗者
129	8月3日	赤旗	核抑止力に依存 日本政府 罪深さは核保有国と同等
130	8月4日	朝日	ナガサキの記憶 被爆75年(1) 25年埋もれた医師の悔恨 1945年 永井隆の救護報告
131	8月4日	長崎	被爆戦後75年 現代の核情勢 パネルで 10日まで 県庁で特別企画展
132	8月6日	朝日	核といのちを考える 国際平和シンポジウム2020 核兵器廃絶への道(1)
133	8月6日	朝日	核といのちを考える 国際平和シンポジウム2020 核兵器廃絶への道(2)
134	8月6日	中日	核 同世代と考えたい 広島、長崎で若者ら発信 オンラインも活用 原爆の被害 世界に伝える
135	8月6日	長崎	論説 高まる核兵器使用リスク 被爆75年の核情勢
136	8月6日	長崎	平和首長会議 核なき世界へ若者交流 16か国、オンライン討論会
137	8月6日	長崎	広島平和祈念式典
138	8月8日	長崎	福岡のラジオ局 9日に平和特番 本県民放アナら出演
139	8月8日	長崎	核と人類 AI、サイバー攻撃 戦争の様相変わる インタビュー 国連事務次長 中満 泉
140	8月9日	産経	被爆者運動資料 後世に 「散逸防ぐ」研究者ら奔走
141	8月9日	長崎	8・9に寄せて 核兵器廃絶の転機に
142	8月9日	長崎	故土山氏 晩年の言葉出版 寄稿証言など収録 「被爆地どうあるべきか示唆」
143	8月9日	長崎	オンラインで「虹のひろば」 生協組合員ら平和考える
144	8月9日	長崎	核禁条約 政府は「扉閉めないで」 議論の高まりを期待 長崎で中満国連事務次長
145	8月9日	西日本	社説 長崎原爆の日 継承を深め「不戦」の礎に
146	8月9日	西日本	国連事務次長 軍縮担当上級代表 中満泉氏に聞く 核運用AI化に危機感 人間中心の安全保障を
147	8月9日	西日本	被爆75年 長崎からの視線 コロナ禍の夏に 核なき世界 対話こそ要 若者「価値観違う人と」
148	8月10日	長崎	核兵器のない世界の実現を ICRCなどが討論
149	8月10日	長崎	被爆・戦後75年 長崎平和宣言
150	8月11日	朝日	学生ら国連事務次長と平和語る 「中満さんの言葉 勇気に」
151	8月11日	朝日	犠牲の学生らに教授や職員黙禱 長崎大で慰霊祭
152	8月13日	長崎	溶解・核秩序 アメリカとイラン(下) 中東の変数イスラエル 大統領「戦争望まず」
153	8月15日	毎日	核兵器 米国民に根強い維持論
154	8月16日	朝日	戦後75年 長崎×広島×沖縄 20代、平和教育語る きょうオンラインシンポ

長崎大学核兵器廃絶研究センター一年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
155	8月19日	長崎	「枠飛び出して」言葉励みに
156	8月20日	西日本	「平和のボタン」私も ナガサキ・ユース代表団 岩高史織さん(20)「思いを届け、核と向き合う」
157	8月27日	毎日	原発のたたみ方(11) 見通しにくい廃炉費用 試算の8兆円では……
158	9月	NR	Information 核兵器廃絶市民講座「核時代の文学 偽の語り部と小説の真実」
159	9月	とっとなつて motto!	おでかけ情報2Weeks Pic Up 9/26(土) 核兵器廃絶市民講座「核時代の文学 偽の語り部と小説の真実」
160	9月5日	NTT労組	平和を考える2020⑥ 原爆文学と平和行政の観点から 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA) 青来有一客員教授インタビュー
161	9月5日	NTT労組	シリーズ:平和を考える2020⑥ 原爆文学と平和行政の観点から 互いに「語り合い」つなげよう
162	9月6日	朝日	平和活動する若者「意識高い」? 長崎の学生 同世代の声に戸惑いつつ前へ 周囲気にせず「ポジティブに」
163	9月7日	長崎	ながさき時評 原爆忌の首相あいさつ パターンを超える行動を
164	9月10日	長崎	被爆戦後75年 ヒバクシャ国際署名 県内50万筆 目標達成
165	9月10日	長崎	被爆戦後75年 国際署名 県内50万筆達成「批准迷う国に刺激」被爆者 核廃絶の思い新た
166	9月10日	読売	ユース代表団が国内活動を報告 NPT派遣中止
167	9月10日	読売	核廃絶署名50万筆 長崎県民の会 4年で達成「感謝」
168	9月11日	朝日	核廃絶の思い 50万筆突破 県内の「ヒバクシャ国際署名」
169	9月13日	赤旗	核のボタン 真の脅威は「敵」ではなく米核政策 評者 中村桂子 長崎大学准教授
170	9月15日	長崎	被爆戦後75年 ピースキャラバン隊など認定 アジア青年平和交流、3事業 コロナ禍 動画活用目立つ
171	9月17日	長崎	長崎大学 ブタネタリーヘルスのためにVOL.6 知の連鎖で地球課題に挑む
172	9月23日	朝日	ひと 被爆地・長崎の戦後の記録保存を訴える長崎大客員研究員 四條千恵さん
173	9月23日	長崎	「核時代の文学」テーマ 26日、大村で青来氏講演
174	9月24日	読売	講座 講演 核兵器廃絶市民講座
175	9月27日	朝日	目標突破 核廃絶へ決意新た 署名50万筆超 爆心地で報告
176	9月28日	毎日	ナガサキ・ユース代表団9期生募集 核兵器廃絶連絡協
177	9月30日	長崎	長崎原爆 継承へ「考え続ける」青来さん大村で講演「関心 失わないために」
178	9月30日	長崎	被爆戦後75年 「原爆資料館訪問を」被爆者5団体 菅首相に要望書
179	10月	NR	Information 核兵器廃絶市民講座「沖縄と核 歴史を変えた1945年の空白」
180	10月	とっとなつて motto!	おでかけ情報 2Weeks Pick Up 核兵器廃絶市民講座「沖縄と核 歴史を変えた1945年の空白」
181	10月1日	朝日	核禁条約 菅政権へ考え問う 被爆者5団体が首相宛て文書
182	10月2日	長崎	溶解・核秩序 日米核同盟(上) 抑止強化、後退する軍縮 NPR、「高く評価」進む密室協議
183	10月3日	長崎	被爆・戦後75年 核兵器廃絶長崎連絡協 「ユース代表団」13日から募集 8～10日、長崎大などで説明会
184	10月6日	読売	ユース代表団9期生を募集 13日から
185	10月8日	長崎	評論 核燃料再処理 出口なき政策、脱却を
186	10月8日	西日本	ナガサキ・ユース第9期代表団募集 28日締め切り
187	10月11日	長崎	被爆戦後75年 「原爆語り合うきっかけに」作家の青来さん 小説巡り被爆者らと座談会
188	10月11日	長崎	被爆戦後75年 長崎原爆と創作 文学の役割を模索
189	10月14日	朝日	ナガサキ・ユース9期生募集 当面、オンライン中心 28日必着
190	10月14日	東洋経済	「核のごみ」問題、北海道で起きる深刻シナリオ 寿都町、神恵内村が最終処分場の調査に応募
191	10月14日	長崎	長崎原爆と創作 第2部 文芸 小説座談会②「祭りの場」
192	10月15日	西日本	核誇る中国「原子城」自国民に「開発のきっかけは日本」
193	10月15日	西日本	核開発の町 地域振興担う 土産はミサイル きのご雲に歓声 米中に軍縮交渉要請を

長崎大学核兵器廃絶研究センター一年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
194	10月15日	西日本	爆心地行ったり来たり 核禁条約 独唱からコーラスへ
195	10月19日	公明	読書 世界滅亡マンシ 核戦争計画者の告白 今ある危機を知らせる衝撃の事実
196	10月20日	長崎	被爆2世のゲノム解析へ 放射研 子への影響、詳細に分析 「重要な研究」県内被爆者、「慎重に」の声も
197	10月20日	長崎	被爆戦後75年 31日初会合、ネット公開 長大レクナ パンデミックの核情勢への影響考察
198	10月20日	毎日	パンデミックと核を考える オンライン会議を共催 長崎大と米韓研究機関
199	10月21日	長崎	被爆戦後75年 秋月さんの遺志受け継ぐ 長崎 核廃絶へ命日に墓前祭
200	10月21日	長崎	被爆戦後75年 長崎原爆と創作 第2部 文芸 小説座談会③「爆心」「自由に書いて」転機に
201	10月21日	長崎	溶解・核秩序 日米核同盟(中) 軍縮の米、日本は憂慮 差し掛かる「傘」国防に死活的
202	10月22日	読売(広島版)	被爆75年調査 被爆者編(1) 「米国恨んでいない」約8割
203	10月23日	読売(広島版)	被爆75年調査 被爆者編(2) 生きづらさ 多岐に及ぶ
204	10月24日	長崎	追想 元原水禁議長 長崎大名誉教授 岩松 繁俊さん 説き続けた加害・被害
205	10月24日	読売(広島版)	被爆75年調査 被爆者編(3) 証言聞き 判断力養って
206	10月25日	時事通信	核禁止条約・識者談話
207	10月25日	読売(広島版)	被爆75年調査 被爆者編(4) 風化 義務教育で防止を
208	10月26日	朝日	核禁条約 来年1月発効 50カ国・地域が批准 条件満たす 「核兵器は非人道的で違法」
209	10月26日	朝日	天声人語
210	10月26日	朝日	時時刻刻 「核兵器は悪」軍縮迫る
211	10月26日	朝日	核不拡散条約の補完へ 道示す必要 中満・国連事務次長に聞く
212	10月26日	朝日	社説 核禁条約発効へ 日本も参画へ姿勢改めよ
213	10月26日	朝日	長崎 久々の青空 生きてよかった・政府は直視を 平和祈念像前で200人が集会
214	10月26日	朝日	核なき世界へ 一歩 被爆地、政府に「早く批准を」 日本が変われば世界変わる
215	10月26日	長崎	核兵器禁止条約1月発効 批准50に 対米重視の日本不参加 「ゴールではない」長崎市長
216	10月26日	長崎	ながさき時評 学術会議任命拒否 不利益はあらゆる場所に
217	10月26日	長崎	被爆国 問われる覚悟 核兵器禁止条約1月発効 軍縮圧力 焦る米国
218	10月26日	長崎	実効性に課題 「傘」依存 変わらず 批准国歓迎、保有国淡々
219	10月26日	長崎	命の限り前進 「やれるだけのことを」新たな活動に意欲
220	10月26日	長崎	核なき世界へ一歩 核兵器禁止条約1月発効 被爆者ら歓喜の声 「これからが本番」決意新た
221	10月26日	長崎	長大レクナ 締約国会議など各種会合 「被爆地開催を」
222	10月26日	西日本	「不参加は核必要の説明を」 広瀬訓・長崎大RECNA副センター長「被爆国の知見、提供可能」
223	10月26日	西日本	核兵器禁止条約 来年1月発効 被爆者ら「歓迎」の横断幕 長崎市・平和祈念像前に200人
224	10月26日	毎日	「核兵器は悪」の国際規範を 長崎大RECNA吉田センター長会見
225	10月26日	読売	核廃絶へ前進 県内喜び 禁止条約発効へ 長崎市長「世界の規範に」
226	10月27日	朝日	核禁条約「日本の姿勢変えたい」 ヒバクシャ国際署名 年末まで 発効までカウントダウン 長崎
227	10月27日	長崎	被爆戦後75年 核禁条約 発効まで「88」日 長崎市役所 カウントダウン点灯
228	10月27日	長崎	核兵器禁止条約発効へ(上) 軍拡懸念 多難な船出
229	10月27日	長崎	評論 核兵器禁止条約が発効へ 日本は核への依存下げよ
230	10月27日	西日本	核禁条約発効まで「88日」 カウントダウンボード点灯 長崎市役所前
231	10月27日	読売	核兵器禁止条約 来年1月発効 被団協 政府に参加要求 長崎カウントダウン
232	10月27日	読売(広島版)	被爆75年調査 被爆者編(5) 争ってる場合じゃない

長崎大学核兵器廃絶研究センター一年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
233	10月28日	朝日	「今こそ核の傘を出て」被爆者団体、政府に迫る 核禁条約 署名・批准求め声明文
234	10月28日	長崎	論説 今こそ核政策の見直しを 核禁条約発効へ
235	10月28日	長崎	核兵器禁止条約発効へ(下) 地道な証言 実を結ぶ
236	10月28日	長崎	長崎原爆と創作 第2部 文芸 小説座談会④継承 体験を超える「想像」に希望
237	10月28日	長崎	被爆戦後75年 複数保有国が「強い圧力」核禁条約、発効妨害か 被爆者5団体 国際社会の先頭に 日本政府に声明文
238	10月28日	読売(広島版)	被爆75年調査 学生編(1) 武力解決 理由にならない
239	10月29日	朝日	被爆者ゲノム解析 説明の体制充実を 放射研の試料研究に助言 外部諮問委
240	10月29日	長崎	被爆戦後75年 「軍事研究の排除を」放射研外部諮問委が「助言」
241	10月29日	毎日	被爆者の生体試料で提言 放射研外部諮問委 「ゲノム解析、厳重管理を」
242	10月29日	読売(広島版)	被爆75年調査 学生編(2) 生の声 語り継ぎたい
243	10月30日	長崎	被爆戦後75年 核禁条約 日本参加を 原水協など署名活動へ 被爆者5団体と協力 県内
244	11月1日	長崎	被爆戦後75年 コロナ大流行で核情勢への影響考察 市民社会が積極取り組みを 長大レクナ会合 米中対立に危機感
245	11月1日	読売(広島版)	被爆75年調査 学生編(3) 核廃絶へ 説得は日本の責務
246	11月3日	長崎	被爆戦後75年 核兵器禁止条約 来年1月22日発効 被爆者の長年の訴えが後押し 市民の声で条約を育てていく
247	11月3日	読売(広島版)	被爆75年調査 学生編(4) 歴史学び平和育む
248	11月4日	長崎	長崎原爆と創作 第2部 文芸 小説座談会⑤平和へ
249	11月4日	読売(広島版)	被爆75年調査 学生編(5) 相互理解の努力 不可欠
250	11月10日	長崎	「核廃絶 先頭に」バイデン氏 勝利 被爆地訪問願う 県内被爆者ら呼び掛け
251	11月12日	朝日	バイデン氏に核軍縮期待 「オバマ氏理念継承」「就任直後に進めて」
252	11月12日	京都	核兵器禁止へ 私の見方⑧ 世界の在り方考える好機 長崎大准教授 中村桂子さん(47)
253	11月15日	毎日	2020ヒバクシャ 75年 核なき世界はまだか 川野 浩一さん(80) 裏切られても 旗を振る
254	11月20日	長崎	水や空 2020.11.20
255	11月21日	長崎	被爆戦後75年 VR体験などアイデア様々 長大生 原爆資料館の魅力向上策
256	11月21日	長崎	被爆戦後75年 軍縮教育の在り方考える 長大レクナがシンポ 25日、オンライン配信も
257	11月24日	西日本	核兵器禁止へ わたしの見方 ⑧ 全人類の安全保障考えよ 長崎大准教授 中村 桂子さん(47)
258	11月25日	朝日	平和運動「一時代築いた」故秋月辰一郎さんの妻・寿賀子さん死去 ゆかりの人々、遺志継承誓う
259	11月26日	長崎	被爆戦後75年 軍縮教育「あらゆる層に」長大レクナ・中村氏 パネル討論
260	11月27日	朝日	「人間の共感力で平和な社会」山極・京大前総長講演 平和シンポ 3カ国結びオンライン討論
261	11月28日	長崎	ナガサキ・ユース代表団9期生 「核問題に興味持つきっかけを」
262	11月29日	朝日	変わり目のつぶやき 令和を迎えて トリックスターの退場 壊れた世界 修復が始まる 対話と協力 老賢者の知恵に期待
263	11月29日	毎日	ナガサキ・ユース 9期生に9人 核廃絶目指し 情勢学び活動
264	12月	とととってmotto!	おでかけ情報 2Weeks Pick Up 核兵器廃絶市民講座「ローマ教皇の長崎訪問の意義」
265	12月2日	長崎	戦争の歴史と向き合う課題
266	12月3日	西日本	「核廃絶進むよう努力」ナガサキ・ユース9期生9人が決意
267	12月3日	西日本	軍縮教育のあり方考える 長崎市でシンポ
268	12月3日	西日本	バーチャルで長崎訪問 コロナ禍、オンライン修学旅行 1万人署名高校生ら企画、関東の30人参加 被爆講話や核問題講義視聴
269	12月4日	長崎	子どもたちへ核なき世界を 被爆者の朝長さん 福岡で講演 核禁条約加入の重要性強調
270	12月7日	長崎	溶解・核秩序 日米核同盟(下) 幻の「核先制不使用」 一大転換、日本は反対
271	12月8日	朝日	耕論 オピニオン&フォーラム 核禁条約 世界変えるか

長崎大学核兵器廃絶研究センター一年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
272	12月8日	長崎	被爆証言集発行 長崎市長に報告 創価学会
273	12月9日	読売	ユース代表団9人任命 9期生 ネット使い活動へ
274	12月10日	長崎	石だたみ(ナガサキ・ユース代表団ピンバッジ完成について)
275	12月13日	朝日	教皇の訪問「被爆者勇気づけた」高見大司教、県庁で講演
276	12月13日	長崎	「核廃絶へ海外でも動き」教皇来崎1年で高見大司教
277	12月15日	長崎	被爆戦後75年 本県関係の議員に面会要請 核禁条約批准に取り組む学生ら
278	12月16日	長崎	被爆戦後75年 「核禁条約の効果」核への投融資自制 レクナ中村氏講演
279	12月18日	長崎	「証言2020」発行 故・内田さんへ追悼文 継承の課題を特集
280	12月18日	毎日	核燃料貯蔵 業界の利害一致 電事連 施設共同利用検討 検証 実現 見通せぬ状況
281	12月19日	朝日	被爆75年 証言集77冊目を出版 「長崎の証言の会」被爆者6人の声掲載
282	12月20日	長崎	被爆戦後75年 県原水禁など長崎で集会 日本の核禁批准求めデモ
283	12月26日	長崎	被爆戦後75年 平和の大切さ発信 ユース代表団抱負 副知事に
284	12月29日	長崎	被爆戦後75年 田上市長「核なき世界へステップの年に」核禁条約発効記念イベント 来月23日 長崎、広島、東京 オンラインで結ぶ
285	12月31日	朝日	取材ノートから 長崎の記録を残さねば 原爆資料 喪失の危機
286	1月7日	長崎	溶解・核秩序 米朝交渉(1) 思想交錯、進まぬ非核化 損得勘定で一歩的譲歩
287	1月9日	長崎	窓を開いて コロナ禍から学ぶことは
288	1月11日	長崎	溶解・核秩序 米朝交渉(2) 大取引を狙った強硬派 米、途中退席も想定
289	1月11日	読売	被爆2世ら20人 核禁止条約学ぶ 長大准教授が講演
290	1月13日	長崎	溶解・核秩序 米朝交渉(3) 踊る議会 されど進まず 遠のく非核化のゴール
291	1月17日	朝日	時時刻刻 核禁条約 大国を動かすか 22日発効 米政権交代 オバマ氏の理念継承
292	1月18日	朝日	核禁条約22日発効 1.3万発 核軍縮は進むか
293	1月19日	朝日	ナガサキ・ユースに9人決定 コロナ禍、オンラインで活動へ
294	1月22日	朝日	社説 核兵器禁止条約の発効 廃絶元年、新たな歩みを前へ
295	1月22日	沖縄タイムス	社説 核兵器禁止条約 批准してこそ被爆国だ
296	1月22日	長崎	「米国結束へ全霊」バイデン氏 大統領就任 パリ協定復帰、国境壁中止 被爆者ら「長崎訪問を」
297	1月22日	長崎	特集 核兵器禁止条約発効 被爆者らの訴え 推進力に 条約参加促す取り組みを
298	1月22日	長崎	核禁条約 きょう発効 長大レクナ オンライン会見 「日本のオブザーバー参加重要」
299	1月22日	西日本	核兵器禁止条約発効へ 核軍縮への課題 考察の論文発表 長崎大研究センター
300	1月22日	毎日	長大レクナ ポリシーペーパー ホームページで公開 条約テーマの研究論文収録
301	1月22日	読売	核禁止条約 きょう発効 「保有国との議論カギ」RECNAが論考集
302	1月23日	朝日	核廃絶「第2ステージ」核禁条約 被爆者ら決意新た 「安全保障の大きな潮流」RECNA
303	1月23日	長崎	NEWS論点 核兵器禁止条約発効 既存の殻破る努力を 安保環境の創出も重要
304	1月23日	長崎	核兵器禁止条約全文
305	1月23日	長崎	核なき世界 実現に向け 「全ての人が参加を」カトリック長崎、広島が声明
306	1月23日	長崎	核なき世界へ光明 禁止条約発効 被爆者ら 高揚感にじませ 政府に批准働き掛けへ
307	1月23日	西日本	長崎大核兵器廃絶研究センター 中村 桂子准教授 機運高める鍵 社会に
308	1月23日	西日本	「76年目 雲間から日差し」被爆者ら100人 平和公園で喜ぶ 核禁条約発効
309	1月23日	西日本	「わずかな命。一日も早く」長崎 喜びと焦り
310	1月24日	朝日	ニュースワイド 混迷の電力・原発③ 核燃再利用 抜け出せぬ虚構

長崎大学核兵器廃絶研究センター一年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
311	1月24日	朝日	核廃絶の訴え #拡散願う 条約発効 長崎・広島・東京 語り合う「平和運動、進化が必要」長崎市長×高田明さん
312	1月24日	東京	北東アジア「非核地帯に」被爆地から検討求める声 核禁条約参加の道筋に
313	1月24日	長崎	核禁条約発効「大きな一歩」高田氏と長崎市長が対談
314	1月24日	毎日	核廃絶まで 勇気を持って 被爆地つなぎ 条約発効祝う
315	1月24日	毎日	核禁条約発効「願いかなかったね」内田伯さん墓前に報告
316	1月24日	毎日	「青い地球残そう」長崎市でイベント 今後の取り組み語る
317	1月25日	中国	平和 考fromヒロシマ 核禁止条約 多様な論点
318	1月26日	長崎	原爆って何？ 初歩的なこと分かりやすく 長崎大「ピースキャラバン隊」学習動画製作中
319	1月27日	東京	核に挑む 新たな世界へ(1) 世界の被爆者と喜び共に カナダ在住の被爆者 サーロー節子さん
320	1月27日	長崎	核に挑む 新たな世界へ(下) 被爆者 重要な役割担う オーストラリア アレクサンダー・シャレンベルク外相
321	1月28日	朝日	「平和への誓い」審査会 「思いある人の声を」
322	1月28日	東京	核に挑む 新たな世界へ(2) 米政権でも関与難しく カーネギー国際平和財団 ジョージ・パーコビッチ副所長
323	1月28日	長崎	長大レクナ 核ホットライン創設提言 コロナ影響考察 非保有国の連携図り
324	1月28日	長崎	「平和への誓い」代表者公募 女性参加促すべき 審査会初会合 過去4年、60人中14人 長崎
325	1月28日	長崎	新START 5年延長合意 本県被爆者「核廃絶 加速を」
326	1月28日	西日本	新START 5年延長 米口首脳、電話会談で確認 核軍縮進展に期待 被爆者ら
327	1月28日	西日本	自信の被爆体験語る 平和への誓い 来月から募集 審査会が初会合
328	1月28日	西日本	爆心地行ったり来たり 飛び石 「とこしえの川」は今
329	1月28日	読売	平和への誓い 代表募集 来月1日から
330	1月29日	東京	核に挑む 新たな世界へ(3) 被害救済 日本の貢献を 長崎大・核兵器廃絶研究センター 鈴木達治郎副センター長
331	1月30日	東京	核に挑む 新たな世界へ(4) 廃絶の国際潮流止まらず NPO法人・地雷廃絶日本キャンペーン 目加田説子副代表
332	1月31日	長崎	核に依存しない安全保障を 市民公開講座で共同通信・太田氏 長崎大・吉田氏とオンライン対談
333	2月1日	長崎	ながさき時評 核兵器禁止条約 日本の各政党の立場は？
334	2月2日	長崎	原爆被災資料79点HP公開 長崎大 目録と証言集 無償配布
335	2月5日	長崎	溶解・核秩序 米朝会議(4) 戦略性欠如、決意空回り トランプ政権の4年間
336	2月12日	朝日	核禁条約「不参加」新成人問う 国会議員と面会 ウェブで公開 「自分の意見あるのか 頼りない」「不勉強」
337	2月12日	長崎	特集 長崎新聞記者講座「成し遂げる力」育成 文科省「自立支援プロジェクト」
338	2月13日	西日本	東日本大震災10年 ナガサキ・ユースの鈴木さん(21) 福島出身 被爆地で問う
339	2月17日	長崎	平和発信活動に補助金 長崎市 新年度から、認定事業も
340	2月21日	東京(Sunday版)	徹底解説 核兵器禁止条約
341	2月25日	西日本	爆心地行ったり来たり ひとりごと 巨大な像への戸惑い
342	2月28日	読売	東日本大震災10年 見通せぬ廃炉 サイエンスReport 建屋周辺 汚染がれき散乱
343	3月1日	朝日	「被爆」継承 SNS活用提言 長崎で国際青年平和フォーラム
344	3月1日	長崎	世界に平和教育推進を 長崎市が国際青年フォーラム
345	3月3日	長崎	長大レクナ「核遺産・核政策研究会」 日米世論調査など研究テーマを報告
346	3月8日	朝日	核の遺産と政策 関連性を研究へ RECNA
347	3月9日	毎日	ナガサキ平和リレー(300) 長崎から福島を発信
348	3月11日	長崎	東日本大震災・原発事故10年 災害 長崎と福島(下) 継承 記憶の風化 防ぎたい
349	3月17日	長崎	「ヒバクシャ国際署名」活動 県民の会が解散 条約発効と50万筆達成

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2020

2020年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
350	3月19日	朝日	被爆者の信念 世界を動かした「国際署名」にマクブライド平和賞
351	3月19日	西日本	避難計画「身近な争点」 自然災害巡る判断に違和感
352	3月20日	長崎	核熔融の残像―福島原発事故10年 未曾有の危機① 裏切り続けられた期待
353	3月20日	長崎	核軍縮の潮流に「逆行」 英が核弾頭数 引き上げ 長大レクナ会見
354	3月21日	長崎	溶解・核秩序 未知なるリスク(上) 安定崩壊、混沌する世界 際限なき技術競争
355	3月22日	中国	条約支持 日本世論の75% 米研究者が調査 後ろ向きな政府とずれ
356	3月22日	長崎	ながさき時評 原爆体験の継承 「被爆」イメージの狭さ
357	3月22日	長崎	数多い原爆俳句 後世まで 平和祈念大会実行委 記録誌を発行
358	3月24日	朝日	長崎市と被爆5団体 英の核増強方針抗議 「怒り隠せぬ」「愚行」
359	3月24日	長崎	英核弾頭増強「愚行だ」 長崎の被爆者5団体、抗議文
360	3月25日	長崎	柏崎刈羽「運転禁止命令」規制委方針核防護不備で東電に
361	3月25日	朝日	戦後76年 第2部(上) 被爆地 往復書簡 平和の思い 未来へ 調仁美さん・安彦恵里香さん
362	3月26日	朝日	戦後76年 第2部(中) 被爆地 往復書簡 背景を知り「怖い」の先へ 調仁美さん・安彦恵里香さん
363	3月26日	長崎	白血病・脳腫瘍発生率 低線量でも最大5倍近く 欧米95万人CT調査報告 長崎市研究会
364	3月28日	朝日	戦後76年 第2部(下) 被爆地 往復書簡 消えゆく記憶に心尽くす 調仁美さん・安彦恵里香さん
365	3月28日	長崎	核熔融の残像―福島原発事故10年 未曾有の危機② 足りぬ情報 焦燥の米国
366	3月30日	長崎	長大レクナが軍縮教材 人類、戦争巡る講演編集

<あとがき> [↑](#)

2020年度は、広島・長崎への原爆投下から75年、核不拡散条約（NPT）発効から50年という、核軍縮にとって節目となる、大変重要な年になるはずだった。さらに2021年1月には核兵器禁止条約（TPNW）が発効するという、核兵器廃絶へ向けての大きな転換点を迎えた一年でもあった。

しかし、国際社会を見渡すと、とにかくコロナウイルスによるパンデミックによる混乱に振り回され、NPT再検討会議は延長になり、軍縮に関する実質的な交渉は各所で棚上げされているとの印象をぬぐえない。もちろんコロナウイルスによるパンデミックは、75年記念企画でも強調されたように、これまで多くの人が意図的にか、あるいは無意識に「見ようとしてこなかった」切実な問題が我々の身近に存在していることにあらためて注意を喚起する結果ともなった。

コロナウイルスは、おそらく人類の存続そのものを脅かすような存在ではないだろう。しかし、核兵器は間違いなく短時間で人類の滅亡を招きかねない存在である。それを「核の傘によって守られている限りは大丈夫」という神話で見ないふりをし続けるのは、日々自分たちの命を危険にさらす行為に他ならない。

発効したとはいえ、核兵器を保有するすべての国とその同盟国は依然としてTPNWに対して批准を拒否するとの姿勢を変えていない。私たちはパンデミックに立ち向かうのと同様に、真剣に核兵器に向き合わなくてはならない。

（広瀬 訓）

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2020

2021年9月30日発行

発行所 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

電話: 095-819-2164 FAX: 095-819-2165

E-Mail : recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp

URL : <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>